

第5回瀬戸市まち・ひと・しごと創生推進会議 議事録

▽日 時 平成28年1月8日（金） 10:00～11:30 まで

▽場 所 瀬戸市役所庁舎4階 庁議室

▽出席者（順不同、敬称略）

[瀬戸市まち・ひと・しごと創生推進会議委員]

横井暢彦、水野貴久枝、成田一成、丹羽誠、山中俊博、熊谷由美、中桐淳美、水野和郎、岡崎信久、牧 治

[市]

市長 伊藤保徳、行政経営部長 加藤仁章、経営課長 高田佳伸、経営課参事 涌井康宣

▽欠席者（順不同、敬称略）

[瀬戸市まち・ひと・しごと創生推進会議委員]

寺田 聡委員、山田 基成委員、宮内 美穂委員

▽議題等

- (1) 市長挨拶
- (2) 「瀬戸市人口ビジョン」と「瀬戸市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に関する意見交換
- (3) 今後の予定について
- (4) その他

▽議事内容

議題2：「瀬戸市人口ビジョン」と「瀬戸市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に関する意見交換

事務局より資料1～4の説明をし、以下の通り会議を進めた。

〈加藤事務局〉

部 長： 始めに、これまで審議を重ねた成果として人口ビジョン、総合戦略が完結できたことに対して、委員の皆さんに事務局から御礼申し上げます。ここからはこれまでの審議経過、完成した人口ビジョン、総合戦略について幅広く意見を頂戴したい。

〈成田委員〉

委 員： できあがったものを推進するには予算が必要だ。

長期的な計画を立ててそれに沿って進め、太い道筋を踏まえた上で進めなければいけない。

〈加藤事務局〉

部 長： 実施に向けた貴重なアドバイスということで受け止めたい。

〈丹羽委員〉

委 員： 盛りだくさんであるため、実施するには大変な作業と思うが、しっかりやっていただきたい。瀬戸がどのようなまちとして示されるか心配していたが、「せともの」のまちとして記載されたことは、ありがたいと思う。

ただし、「せともの」が観光やまちづくりだけでなく、産業であることをもっと前面に出してもらいたい。文化というと過去のものにとられ、これから発展性がないもののように捉え

られる恐れがある。「せともの」は産業として可能性があるものと思う。

〈加藤事務局〉

部長： 産業は瀬戸市にとっても非常に大きな部分ということで考えており、頂いたご意見も今後の参考としたい。

〈山中委員〉

委員： 地方創生は基本的に雇用創出がないと、出生率の上乗せにならない。そこからの枝葉として結婚、子育てがあるため、雇用創出を根幹にまちづくりを考えていただきたい。

〈加藤事務局〉

部長： 雇用創出は極めて重要課題で、今後積極的に取り組んでいきたい。

〈岡崎委員〉

委員： これからが大事であると思う。

新たな事業を行うには、予算配分をもっと明確にした方がいい。働く場を作り上げ、住民が生活できる環境を作っていくことが必要である。目標に対してどのように実行し、どう反省して、次に繋げるかが極めて重要だ。外部意見を取り入れて評価し、次に繋げるサイクルを回していければ、中身の濃い厚みがあるものになると思う。

〈加藤事務局〉

部長： いかに有効に資源配分していくのか、行政を預かる立場として大変重要なことと考える。進行管理については、どのように評価をしていくかも含め、今後もお力添えいただきたい。

〈牧委員〉

委員： 総合戦略の最終到達点は戦略策定ではないと思う。この後のプロセスとして、どのように事業を実施するか、どこが請け負うかということは、今の段階で問えるものか。

〈事務局〉

事務局： 役所の予算、執行は議会承認がないとできない。審議の専決権は議会にあり、市長が議会に提案し、認められて初めて使うことができる。確認いただいた内容については、行政経営部で予算編成を進めているため、この1～2か月でまとめる予定で、3月の定例議会で詳しい内容を明らかにしたい。

〈牧委員〉

委員： 安倍首相が発案したもので、特別な交付金の創設があったと思うが、それを市の一般予算の中で配分するのか。

〈事務局〉

事務局： 議題3に関わる内容であるが、先に説明したい。

12月24日に閣議決定された内容は、平成27年度補正予算と平成28年度当初予算の審議が始まっている。平成27年度補正予算では、地方創生加速化交付金として1,000億円を、平成28年度当初予算では、新型交付金として1,000億円になる見込み。

この予算を獲得することは、我々の活動原資をどう獲得するかに直結するものであるため、国に対して予算獲得の積極的な働きかけを行うが、現時点でいくら獲得できるかは不明である。

〈牧委員〉

委員： 個人的にいうと、とても落ち着いた戦略に収まったと思う。予算の取り合いで勝てるか、よそでは目新しい、ドラスティックなものがあるような気がした。我々の意見は凝縮されているが、どれをどのように発展させるか、根本は決まったため見せ方等に注力して欲しいし、そうしたことにも市民を巻き込んでもらいたい。引き続きいろいろな形で我々を使ってもらえると有り難い。

〈加藤事務局〉

部 長： 個別具体的な事務事業では斬新なものを取り入れたいと思う。その中で瀬戸市独自のものを進めていきたい。

〈熊谷委員〉

委 員： いろいろな分野の話が聞けて個人的には視野が広がり、今後の行政に参考になったことが多かった。我々が瀬戸市をどう活性化していくかが使命であり、皆さんの意見をできる限り反映したい。

〈加藤事務局〉

部 長： この先は行政の一員として実践を担っていくことになるため、そちらで力を発揮して頂きたい。

〈水野委員〉

委 員： 今後の進行管理の方向性は決まっているが、早々に明確な具体策を作成した方がいい。我々は仕事で常に長期収支を作っている。今のままでは、人口、事業所が減ると総収入が減っていくため、支出をこれまでと同じように掲げると財政が破綻する。早い時期に、そうしたことになることを明確にするとよいと思う。最近、残念に思っているのは TPP の件で、陶磁器分野の関税 28%が即時撤廃されることになったが、恩恵を受ける商品として、美濃焼、有田焼、常滑焼と新聞に書かれていた。そこ中に瀬戸焼がなかったことが残念なのだが、それは、ブランド力がなく、PR が下手だからである。瀬戸ブランド、イメージ戦略を加えてやってもらえるといいと思う。

〈加藤事務局〉

部 長： 長期的な財政計画について貴重なアドバイスをいただいた。国の制度も変わってくるが、ご指摘のように見通して対応したい。瀬戸市のブランドについては、市長が就任時に挨拶したように、市全体のブランドを高めていくという取り組みや事業に積極的に取り組んでいくという姿勢であり、今後の予算の中で具体的な施策内容を示していきたい。

〈横井委員〉

委 員： しっかりした計画を作っていただき感謝したい。それぞれ色々な考え方があるが、私は国の予算でなく、自分たちで何ができるか考えるきっかけにしたいと思った。今までの事業に加えて新しい事業が増えたため、行政は大変であると実感している。国のビジョンを読み直して自分なりに瀬戸市を分析し、市の計画とリンクしながら計画を考えるのは大変である。わかっていたつもりだが、非常に難しく、自分自身が勉強不足であった。瀬戸のまちが大好きで子ども達のために将来しっかりした結果が出るように、一人ひとりが誇りの持てるまちにしたい。瀬戸市には、いろいろなリソースが沢山あるため、自信を取り戻して誇りをもって活動したいと思った。

〈加藤事務局〉

部 長： 今回の計画の実行には、行政だけで成果が上がるというものでなく、市民や企業、団体のそれぞれがこのまちのことを思っ一緒に活動してもらうことが何より重要だと感じている。

〈水野貴久枝委員〉

委 員： 関心がないのか、パブリックコメントが 3 人しかいなかったことに驚いた。これまでの審議に参加して、普通に主婦として生活していたら考えなかったようなことが沢山あったが、私も会議がなければ、何も考えずに勝手に決まってしまうことと思った。私と同じような女性にどう意識して貰うかを考えてみると、市で考えるのは難しいが、自分の家庭に当てはめるとわかりやすい。自分の家ならば、主人の収入だけでなく自分が動くことで家も潤い、子どもに最高の教育を与えることができる。そして、子どもたちが育った時に私たちの老後をみてくれるという好循環を導ければいい。この会議に出て主婦世代の意識をもう

少し上げたいと思った。また機会があれば勉強させていただきたい。

〈加藤事務局〉

部 長： 市長が女性の活躍を推進していくと宣言している。総合戦略を実施していく中でも、女性の力は大きな推進力となるので、個別具体の施策を進めていくうえで協力をお願いしたい。

〈中桐委員〉

委 員： こうした場に参加し、それぞれの意見にふれることができたことをありがたく感じる。より良い瀬戸を考えるうえで、違う立場や視点の意見を聞けたことは良いきっかけになると思った。ネガティブな意見が印象に残りがちであるが、瀬戸市が大好きであうとか、瀬戸市にはいいものがあると聞くことができた。

私は環境課で仕事をしており、今年度は環境基本計画の中間評価をしているが、岩屋堂の散策道の整備、自然環境ボランティアの育成や各市民団体の活動が展開されているにも関わらず、自然に親しみを感じている市民の割合が平成23年より大きく低下しており、市民に自然の豊かさをどのように伝えていくかが大事だと感じた。人口ビジョン38ページに「自然環境が豊か」というアンケート結果が書かれており、エールをいただいた気もした。自分が携わる中で、自然環境の豊かさを再認識してもらうような施策を実行し、魅力あるまちに繋げていきたい。

また、私の子どもは地元に戻って就職することになった。瀬戸市はいいところであると子どもに言い続けた成果であり、このように、自らやれることがあればやっていきたい。

〈加藤事務局〉

部 長： 瀬戸市の文化を切り口にして、まち全体が活性化されるよう、今後の予算編成や第6次瀬戸市総合計画を通して訴えかけていきたい。

〈成田委員〉

委 員： 新聞に瀬戸市の陶磁器が凋落したと書かれていた。こうした記事よりも、東京で展示会をやったり、一生懸命やっている人を取り上げられるようにしたい。「せともの」は駄目かと言えばそうでない。輸出が駄目になったのは、急激な円高でどうしようもなくなったからである。歴史を踏まえた上で、市民の皆さんにもエールを送ってもらいたい。

〈丹羽委員〉

委 員： 陶磁器の恩恵を受けるまちとして、今後もPRを積極的に取り組む必要があると思う。

〈成田委員〉

委 員： 今は、1300年の歴史の中で短い期間で沈んでいるだけ。これから先、また花開くかもしれない。

〈岡崎委員〉

委 員： 地場産業を否定するわけではないが、第1回会議で、市が予算を投入してきた中で今があることを申し上げた。ここまでして駄目だから何か新しいことを考えるべきというのが、この会議の始まりであったと思う。最後なので言葉を選ばず乱暴な言い方をすれば、特定産業に予算が偏りがちになることが多いため、そうした視点は排除して、中長期的な視点を持って人に対する投資を進めて欲しい。成田委員の意見を否定する訳ではないので、陶磁器はベースにあるものと思う。

〈成田委員〉

委 員： 業界の中で和食器と洋食器に分かれているので、予算をつけるならば和食器をお願いしたい。

〈丹羽委員〉

委 員： 陶磁器だけで瀬戸市を持ち直すことは不可能だ。しかし、瀬戸市では陶磁器があって初めて成り立つ。陶磁器を大きな柱として守り続けて欲しい。工業化の波でプラスチック等が増えたが、もっと暖かみあるものが見直されるようになると思う。最近テレビや雑誌でも陶磁器

が取り上げられる機会が増えているが、瀬戸市でも陶芸作家や愛好家に女性が増え、新しい価値観として見直され、魅力が再評価されているように感じる。そうしたものを前面に出し、瀬戸市の柱の1つとして取り上げて欲しい。

〈牧委員〉

委員： 笠間では沢山の人が陶磁器を求めて来ており、常滑や美濃も瀬戸より多くの人 coming ている。瀬戸市は1300年のやきものの歴史があるものの見せ方が悪い。せとものは安物といった自虐的で自ら卑下するところからスタートしていると思う。せともの祭りは儲からないと言っていることが残念で、嫌々やっているようだ。せとものを地域の宝だと思えるようにやってもらいたい。

〈水野委員〉

委員： せとものを広めるには、こども達が大好きと思えることが一番である。子どもの茶碗に割れないプラスチックを使う母親の意識を換えていくべきで、子どもたちに感性を養って欲しい。

〈加藤事務局〉

部長： せともの話が最初と最後に出てきたが、スピリットを反映したものと再認識した。

議題3：今後の予定について

事務局より今後の予定について以下のポイントを説明した。

〈事務局〉

事務局： ① 平成28年度の予算確保については、3月の定例議会を経て、地方創生に関連する施策の内容を明らかにし、実施していくことになる。
② 平成28年に実施する施策については、度末にPDCAでの検証の場を設けることとなるので、委員の皆様には、改めてご参加をお願いしたい。
③ 今後も、地方創生だけでなく、第6次瀬戸市総合計画や中期事業計画等の情報も含めて委員の皆様には情報発信していきたい。

以上